

鹿児島県始良・伊佐圏域

長期入院精神障害者の 地域移行推進に向けて

始良・伊佐圏域では、平成26年から圏域の精神障害者の地域移行・地域定着支援の全体的な水準の向上を図ることを目的に、始良・伊佐圏域障害者地域連絡協議会の中に精神保健福祉専門部会（精神障害者地域移行・地域定着推進会議）を設置し、協議の場の設置、研修会等実施している。

平成29年度は、長期入院者精神障害者の地域移行推進事業を活用し、一般相談支援事業所と共に、ピアサポーターの活用による地域移行支援、精神科病院職員に対する研修等を行い、精神障害者のより一層の地域移行を促進し、体制づくりを行う。

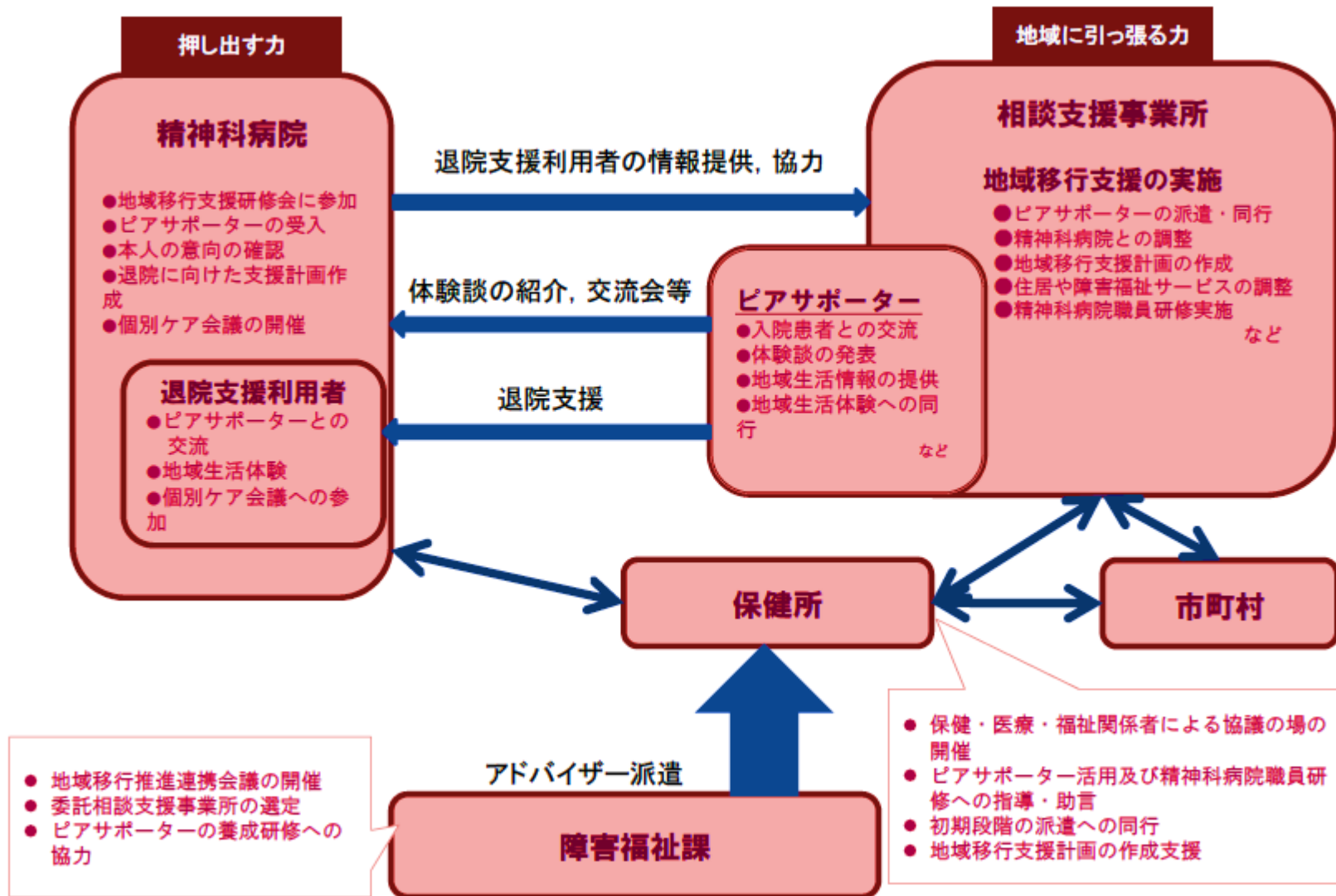
1 始良・伊佐圏域の基礎情報

基本情報

市町村数（H28年10月末）	4市町村		
人口（H28年10月1日）	237,507人		
精神科病院の数（H28年6月末）	8病院		
精神科病床数（H28年6月末）	1,691床		
入院精神障害者数 （H28年6月末）	3か月未満：247人（15.8%）		
	3か月以上1年未満：299人（19.1%）		
	1年以上：1,019人（65.1%）		
	うち65歳未満：372人		
	うち65歳以上：647人		
退院率（H28年6月末）	入院後3か月時点：53.0%		
	入院後6か月時点：69.6%		
	入院後1年時点：81.7%		
相談支援事業所数（H29年4月末）	基幹相談支援センター：0		
	一般相談事業所数：4		
	特定相談事業所数：25		
障害福祉サービスの利用状況 （H28年度）	地域移行支援サービス：3人		
	地域定着支援サービス：0人		
（自立支援）協議会の開催頻度（H28年度）	2回／年		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の有無と数	障害保健福祉圏域	有・無	1カ所
	市町村	有・無	2カ所

※H29年6月時点

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要 (H29年度)



3 評価指標の設定状況

【鹿児島県全体】

指標名	H28時点	H29	H30	H31	H32
1年以上の長期入院患者数	5,851	5,701	5,501	5,271	5,017

【始良・伊佐圏域】

指標名	H28時点	H29	H30	H31	H32
1年以上の長期入院患者数	1,019	999	964	919	873

（現状値：平成28年6月30日時点の入院患者数（H28 630調査速報値）

【設定理由（根拠）】

・事業初年度の平成29年度は試行錯誤しながら事業を進めていくため、減少数が少な目だが、2年目（平成30年度）以降は初年度の事業プロセスを参考としながら、効率的に事業を実施するとともに、他圏域にも波及させることで、減少数が増加していく。

4 事業の進捗状況 ①

※平成29年9月末時点

1. 関係者との打合せ会（県，保健所，事業所等）
 - ・ H29.7.13 （10名） モデル事業，今後のスケジュール確認
 - ・ H29.8.17 （7名） 事業開始前の確認事項，目標値確認
 - ・ H29.9.26 （8名） 今後の事業方針確認

2. 長期入院精神障害者の地域移行推進事業（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業）に係る戦略会議（県，保健所，事業所，広域AD，密着AD）
 - ・ H29.8.4 AM （16名）
 - ・ 地域の現状と課題，地域移行目標値確認，今後のスケジュール及び役割確認

3. 平成29年度 長期入院精神障害者の地域移行推進研修会（管内精神科病院，事業所，市町等）
 - ・ H29.8.4 PM （50名）
 - ・ 講話（県，広域AD），ピアサポート専門員による体験談発表

4. 平成29年度精神障害者ピアサポーター養成講座（県精神保健福祉士協会委託）
 - ・ H29.8.19～20（64名）
 - ・ 講話，グループワーク等

4 事業の進捗状況 ②

5. モデル事業受託事業所支援（保健所）
 - ・H29.8.25 ピアサポーター採用面接立ち会い他
 - ・H29.9.12 情報共有, 今後の事業方針確認

6. モデル事業 第1回連絡会（県, 保健所, 病院, 事業所, 密着AD, ピアサポーター）
 - ・H29.9.6 （14）名
 - ・スケジュール確認, ポスター素案に対する意見交換等, ピアサポーター紹介

7. 協力病院への事業説明（保健所, 事業所）
 - ・H29.9.8
 - ・モデル事業の説明, 病院からの意見聴衆

8. 地域移行支援に関する周知活動
（保健所）
 - ・精神科病院実地指導及びケース会議等でのモデル事業の周知
 - ・協力病院への対象者リスト案の作成依頼
（事業所）
 - ・各市等関係先（自立支援協議会等）へのモデル事業の周知

5 現時点での課題・悩み

1. 始良・伊佐圏域

- 地域移行支援という障害福祉サービスについて、病院内ではごく一部の職種・関係者しか知らないため、地域移行支援への取組方がわからない関係者が多い。
- ピアサポーターを利用する際、病院側の理解を得るのが色々と難しい。
- ピアサポーターや事業所がモチベーションを維持しながらこの事業を進めていくために、保健所がどこまで支援が出来るか、不安である。
- 病院へ事業説明を行った際、想定外の質問を受けた。（病院側の安全管理上の問題等）

【 質 問 】

- 病院側にピアサポーターの活用を拒否された場合の対応について
- 地域移行支援を利用する対象者選定の際 配慮したこと
- 密着アドバイザーとの連携状況

5 現時点での課題・悩み

2. 県障害福祉課

(1) ピアサポーター養成講座に関する課題・悩み

- ・ 始良・伊佐圏域をモデル圏域として、始良保健所においてピアサポーター養成講座を実施したが、周知期間が短かったこともあり、受講者が少なかった。(20名)
- ・ ピアサポーター活用事業を実施する地域のうち1か所は、過疎地であるため、当該地域に居住する受講者が少なかった。事業を効果的に実施するにあたっては、一定数のピアサポーターの確保が必要であり、当該地域の近隣の市町村における周知・広報が重要だと感じた。

(2) ピアサポーター活用事業に関する課題・悩み

- ・ ピアサポーター養成講座の準備への着手時期が遅くなったことから、ピアサポーター活用事業について、保健所や精神科病院等の関係者に説明を行い、理解を得る期間が短くなり、調整不足の感が否めなかった。来年度以降は、年度当初から養成講座の準備に着手し、ピアサポーター活用事業の準備期間を十分に確保する必要があると感じた。
- ・ 精神科病院に対しては、事前説明などにおいて、ピアサポーター活用事業の内容について、おおまかな説明は行っていたものの、実際にピアサポーターが病棟に入る段階になると、支援対象となる患者の安全管理の問題などが提起され、その調整に時間を要している。
- ・ ピアサポーターの採用に関しては、委託事業者に任せしたが、採用後、精神科病院から、採用前に情報提供してほしかったとの意見があった。個人情報を提供できるかという問題や、精神科病院の意見を採用にどの程度反映させるべきか難しいが、採用したピアサポーターと精神科病院との関係によっては、精神科病院との調整に時間を要する事態となるため、来年度以降検討すべき課題となった。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた 平成29年度の取組スケジュール

平成29年度の目標

1. 養成したピアサポーターを地域移行スタッフとして活用しながら、長期入院精神障害者の地域移行支援が実施出来るよう、相談支援事業所をサポートし支援を行う。
2. 精神科病院及び相談支援事業所，市町等関係機関の，地域移行に関する認識の平準化・連携強化を図る。
3. 障害福祉サービスの地域移行支援（個別支援給付）件数の増加

時期(月)	実施内容	担当
H29年8月 "	ピアサポーター養成講座の実施 " への参加	受託事業所 一般相談支援事業所， 保健所
8～3月	保健医療福祉関係者による協議の場の設定	保健所
9～2月	ピアサポーターを活用した地域移行支援の現地 " 相談支援事業所への協力，支援 " 病院との打ち合わせ，研修等	一般相談支援事業所 保健所 保健所，一般相談支援 事業所 保健所
	精神科病院実地指導を活用してモデル事業の紹介，周知，協力依頼	
11～12月	地域移行等をテーマに関係者への研修会を実施	保健所
H30年3月	事業評価	保健所・県